

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2020年度 パフォーマンス向上会議情報(2020年5月27日(水)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2020年5月27日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【6号機増設淡水化装置の濃縮水出口電動弁の動作不良について】 当直員にて、6号機増設淡水化装置停止操作後、濃縮水安全弁一次側圧力の上昇がみられなかったため、濃縮水出口電動弁を確認したところ、全閉となるはずが全閉となっていなかった。 操作スイッチを「自動」から「閉」にしたが全閉とならなかったため、一旦、全開したのち「閉」操作をしたところ全閉となった。 再現性確認のため、開閉操作をしたが弁が全閉とならなかったため、全閉し中断した。 原因は、濃縮水による析出物等が濃縮水出口電動弁に付着し動作を妨げていると推定。 今後、当該弁の分解点検を予定。</p>	GⅢ	5月24日
2	<p>【6号機タービン建屋オペレーティングフロア空調設備冷却器(C)のフロン漏えいについて】 4月1日 6号機タービン建屋オペレーティングフロア空調設備冷却器(C)の冷媒定期点検において、圧力を確認したところOMPaだったため、漏えい検知器を使用して漏えいの有無を確認したが、漏えいは確認できなかった。 5月21日 漏えいの有無を確認するため冷媒を回収したところ、回収量が0kgだったことからフロンの漏えいがあったと判断した。 原因は経年劣化によるものと推定。 空調設備は冷媒定期点検前より停止中であり、今後の使用予定もなし。</p>	GⅢ	5月21日
3	<p>【5号機タービン建屋空調設備冷却器(C)のフロン漏えいについて】 3月30日 5号機タービン建屋空調設備冷却器(C)の冷媒定期点検において、圧力を確認したところOMPaだったため、漏えい検知器を使用して漏えいの有無を確認したが、漏えいは確認できなかった。 5月21日 漏えいの有無を確認するため冷媒を回収したところ、回収量が0kgだったことからフロンの漏えいがあったと判断した。 原因は経年劣化によるものと推定。 空調設備は冷媒定期点検前より停止中であり、今後の使用予定もなし。</p>	GⅢ	5月21日
4	<p>【6号機電気品室空調設備空気冷却器(B)のフロン漏えいについて】 3月30日 6号機電気品室空調設備空気冷却器(B)の冷媒定期点検において、圧力を確認したところ0.35MPaだった。 冷却器(A)と比較するとフロンの漏えいが疑われたため、漏えい検知器を使用して漏えいの有無を確認したが、漏えいは確認できなかった。 5月22日 漏えいの有無を確認するため冷媒を回収したところ、規定量175kgに対し回収量が8.1kgだったことからフロンの漏えいがあったと判断した。 原因は経年劣化によるものと推定。 フロンの漏えいおよび冷媒を回収済みのため、現在はフロンの漏えいなし。 空調設備は冷媒定期点検前より停止中であり、今後の使用予定もなし。</p>	GⅢ	5月22日